

山の彼方の空遠く

次期アメリカ大統領にトランプ氏が決まった。彼は選挙戦で従来の候補者にはない問題発言が多かった。イスラム教徒は入国させないとか。日本は米軍の駐留経費をもっと支払うべきだとか。メキシコとの国境に壁を造るだとかだ。

このうち、メキシコとの国境に壁を造り、その費用を負担させるとの発言について、メキシコに駐在していた昔を思い出しながら考えた。

私は一九八九年六月から三年六ヶ月の間、アメリカ西海岸最南端の都市、サンディエゴで家を借り、メキシコのティファナで働いていた。メキシコは経済状況や治安で不安があったため、アメリカで生活をして、毎日メキシコに通勤していた。

当事、メキシコは政治経済とも不安定で、これを打開するためアメリカとの国境から百キロ圏を工業地帯とした。そして、ここで造られた商品をアメリカに輸出するとき、関税をかけない政策をとった。それは不況で国内に溢れていた失業者対策でもあった。低賃金で働く人たちが国境に作られた工業地帯に集まった。

これは、アメリカ市場に輸出を行う各国の企業にとっても、運搬経費が安くなる等の魅力あるものになり、ティファナでは日本の電機会社の多くが工場を運営していた。私が働いていた会社でもテレビ、冷蔵庫、電池、掃除機等の工場が稼働していて、五千人の現地人を雇用していた。

通勤のため、アメリカの高速道路を南

下してメキシコに近づいてくると、両親が子供の手をもって高速道路を通行しようとしている注意標識が眼に入る。これはアメリカに密入国したメキシコ人がサンディエゴやロスアンデルスを目指す。注意しましょうという標識だ。

国境に近づく、メキシコへの入国ゲートが見えてくる。高速道路にある料金所のようなもので、二つのゲートがある。ただ開いているのは一箇所のみ、二箇所とも開いていたのを見たことがない。国境入口には係官が立っており、ここで一旦停止をして、パスポートをかざすと、何も見ないで係官は手を振って行けという合図をする。これで入国審査は終了だ。時間にして一秒もかからない。

他方、アメリカへの入国ゲートは二十ゲートの手前五メートルの位置に停止線があり、そこで一旦停止をする。係官は車のナンバーをコンピュータに入力する。そして来いと手まねきをする。係官の横に停車し、パスポートに貼り付けた労働許可証のページを開き手渡す。係官は顔写真のページも開き顔を見比べたりする。そして「何か持っていないか。申告するものは無いか、どこへ行く？」などの質問をする。

時にはトランクを開けてとか、座席に置いたアタッシェケースを開いてと言ったりする。質問は毎回そんなものだが、係官が何かおかしい。何か不審なものを持っているのではないかと疑うと、チェックシートをワイパーに挟み、第二検問

所に行くように指示をする。このようにアメリカは入国する車と人を厳しくチェックする。このため、時には入国に二時間待ちということもある。

第二検問所に行き不審者と思われると徹底的に調べられる。車に乗っている荷物は全て降ろし、座席シートも取り外したり、テールランプも外したりして中に何か入っていないか調べる。時には別室に連れて行かれ、服も脱がされパンツ一枚にして調べることもあるという。

彼らがなぜそうまでするかといえば、メキシコからの入国者には麻薬を密輸する人が多く神経を尖らせている。麻薬はコロンビアの反政府勢力が山岳地帯で栽培し、陸路メキシコを経由してアメリカに持ち込まれている。また、サンデイエゴ湾にはアメリカ第六艦隊の軍港がありスパイの入国にも神経を使っている。

眼を転じて国境を見ると、都市部や工業団地帯にはフェンスがあるが、少し内陸部に入ると、ワイヤーロープ一本が敷いてあるだけでメキシコ人の子供が国境を越えて遊んでいた。このため、このあたりからアメリカに密入国するのは簡単だ。しかし国境付近は、国境警備隊が地上はパトカー、空からはヘリコプターがいつも監視している。

通勤で高速道路を走っていると、道路ぎわでパトカーに両手を置き、取り調べを受けている人を見かけたり、十数人が数珠つなぎになり、警察官に連れられて歩いていたりするのを見ることも

度々だった。

密入国者は、週に数回バスでメキシコ国境に連れてこられ、強制送還されているのを見かけた。毎回数十人がメキシコに送還されていた。彼らはメキシコに帰されても取り調べを受けることもなく、そのまま釈放されている。このため密出国したという罪の意識はまったくない。

工業団地でメキシコ人は一時間一ドルで働いていた。多分食べるだけで精一杯だっただろう。しかし、ダウンタウンに行けばアメリカ資本の豪華な百貨店があり、何でも売っていた。安い給料のメキシコ人には目の毒だなど、いつも思っていた。

このため彼らは隣の企業が少しでも給料がいいと知ると直ぐ転職した。そんな人たちが国境を越えてアメリカに入り、職にありつけば、最低でも五倍の給料を得ることができるとを知っていた。それゆえ国境の彼方には幸せがあると信じていても不思議ではない。

仮に密入国できても職にありつけるのは極めて難しく、密入国者とわかれば警察に通報され強制送還されてしまう。密入国者だと知って雇用する経営者は、足元を見て安くこき使う。それでも低賃金で働くメキシコ人が多く、一部のアメリカ人は彼らに職を奪われていると思っている。

麻薬と密入国者による不法就労。これに対抗するため国境に壁を造るというのがトランプ氏の言い分だ。

貧しい国メキシコと豊かな国アメリカ

力が隣り合って存在する。貧しい国の
貧しい民には多くの欲望と悩みがあり、
沢山お金を儲けて幸せになりたいと思
っている。カールブッセの詩にあるよう
に、国境の彼方には幸せがあるのだらう
か。

山の彼方の空遠く幸い住むと人のいう
ああ、われひとと尋めゆきて、
涙さしぐみかえりきぬ。

山の彼方になお遠く幸い住むと人のい
う。(カール・ブッセ)

平成二十八年十一月